



シリーズ
タンチョウ
Vol. 360

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

櫻井真弓

〒085-1205 鶴居村中雪裡南 ☎64-2620/FAX64-2239

鶴居 タンチョウ

検索



「もっと知りたいタンチョウの事」皆さんの質問にお答えします!!

この冬も多くの方がタンチョウを見に鶴居村に来られました。私たちレンジャーにとって、タンチョウの魅力を伝えることは大切な仕事です。タンチョウの生態や暮らしをお話する中で、来館者から色々な質問を受けました。この冬のサンクチュアリ来館者からの質問ベスト3にお答えします。

<どうして川で寝ているのですか？水の中は寒くないの？>

冷え込む朝は-20℃を下回ることもある鶴居村ですが、凍らない川の水温は+5℃くらいです。羽毛に包まれていない足を川に入れることで、氷点下の寒さから身を守っているのです。また、キツネに襲われる心配もないので安心して眠ることができます。集団で利用できる川幅の広い雪裡川のねぐらは、寄り添って過ごすことができるので安心安全で暖かいねぐらなのです。そんなねぐらがある事が、多くのタンチョウが鶴居村に集まる理由のひとつです。

<頭の赤いところが目立つタンチョウと目立たないタンチョウがいるのはどうして？>

頭の赤いところは羽が生えていなくて皮膚が露出しています。興奮すると皮膚が伸び赤い部分が広がるので目立ちます。なわばり意識の強いタンチョウは、他のタンチョウが近くにくるとイライラするのが興奮します。また、驚いた時やラブラブな気持ちになった時にも興奮するので赤いところが目立ちます。給餌の時には人が入るので警戒するだけではなく嬉しいのもあって興奮するのかなと思います。個体差ではなくて気分差なのです。気分差と言っても、給餌場で頭を赤くして伸び上がるように歩くタンチョウは、血気盛んな気の強いタンチョウで、逆に気弱なタンチョウは赤いところを小さく縮めて首をすくめて歩いています。

<北海道には約1800羽のタンチョウがいるとのことですが、そのうち鶴居村は何羽くらいいるの？>

厳冬期には約600羽のタンチョウが鶴居村にいます。この冬の「タンチョウ数かぞえ調査」では、村内で595羽のタンチョウが記録されました。では今の時期はというと、鶴居村では大体50組のタンチョウが営巣をしていますので、約100羽のタンチョウが村に残って巣作りや抱卵をしています。それ以外にも、自立したばかりの幼鳥や、つがいになっていない若鳥が50羽以上は居残っていると思います。多めに見積もって約200羽のタンチョウが生粋の鶴居村民で、残る約400羽は冬の間の短期移住者（鳥？）です。

サンクチュアリは10月1日まで休館していますが、タンチョウについて知りたい事があれば遠慮なくお電話下さいね。



多くの来訪者で賑わう給餌場(2月16日)